

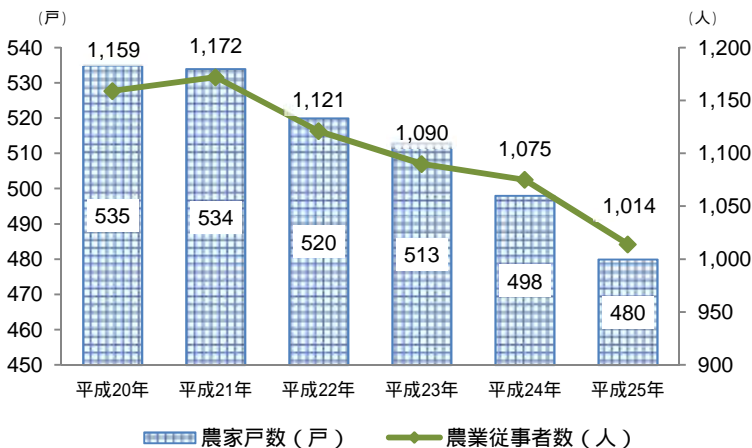
練馬の農業

～ 23 区で最大の農地面積を有するが今後も農家や農地の減少が懸念される ～

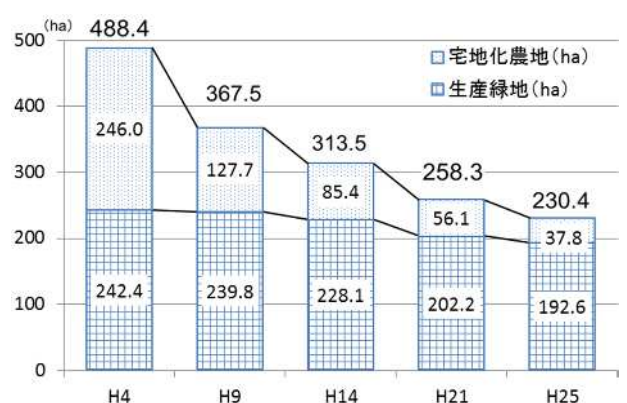
- ・ 区は 23 区で最も広い農地面積を有していますが、農家戸数と農業従事者数は減少傾向にあり、平成 20 年から平成 25 年にかけてそれぞれ 535 戸、1,159 人から、480 戸、1,014 人へと減少しています。農地面積も減少しており、約 20 年の間で半分程度に減少しています。
- ・ 農地には、農産物の供給だけでなく防災空間の確保、環境保全など多様な役割がありますが、相続時の税負担や、後継者問題などから、今後も農地が減少していくことが懸念されます。
- ・ 出荷先をみると、「自宅販売・無人販売」が 4 割程度で最も多く、市場や共同直売所等に出荷しているのは合わせて 4 割程度になっています。また、農業体験農園や観光農園等の都市農業の魅力を活かした経営が展開されています。
- ・ 区民の練馬産農産物の認知度や購入経験をみると、「知っており、購入したこともある」人が 6 割を超えています。また、区民の農地の保全に対する意識も高く、都市農業の重要性が広く認知されていることがうかがえます。

都心近くにありながら広大な農地を有し農の豊かさを感じられる都市であるというのは、区の大きな特徴です。区民の区内産農産物に対する認知度や購入意向なども高く、農業に求められる役割は今後一層高まっていくと見込まれます。しかし、農家や農地の減少が続いており、農業の衰退が懸念されています。

農家戸数・農業従事者数の推移



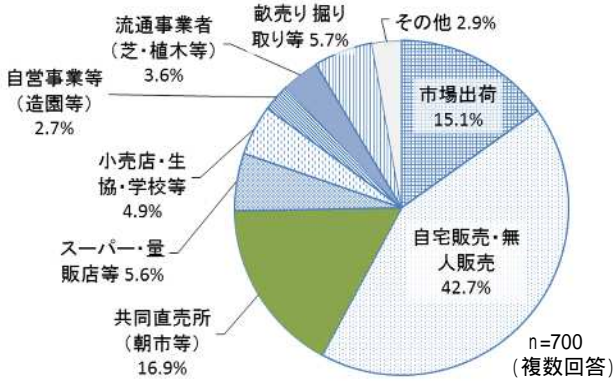
農地面積（宅地化農地 + 生産緑地）の推移



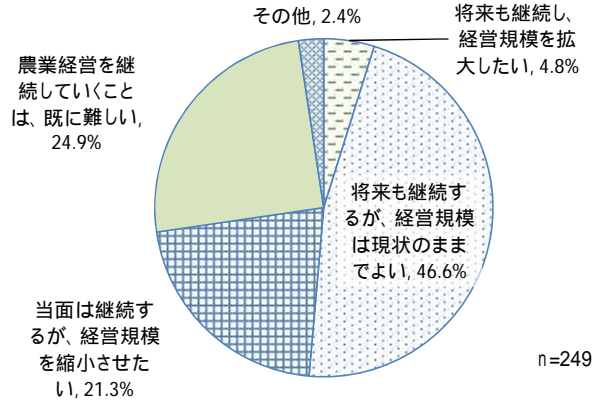
[出典] 練馬区産業経済部資料

[出典] 練馬区農業委員会「農業経営実態調査」

農作物の出荷先

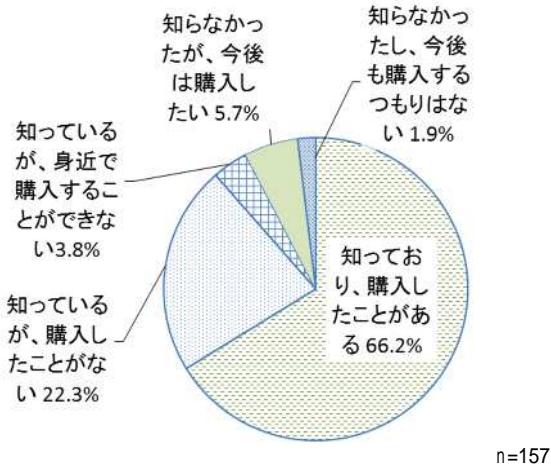


今後の農業経営に対する考え



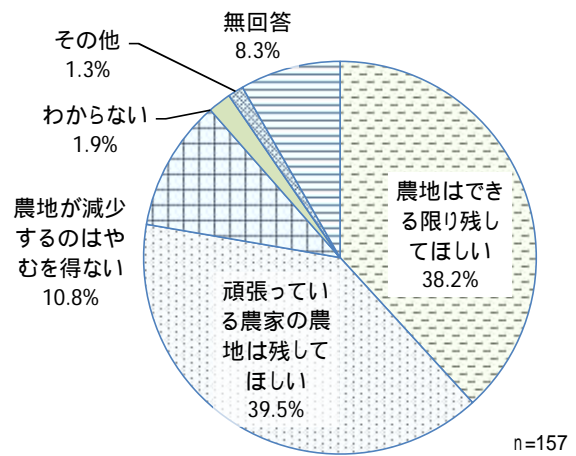
[出典] 練馬区農業委員会「農業経営実態調査 (平成 25 年度)」 [出典] 練馬区「農業者意向調査 (平成 26 年度)」

区民の練馬産農産物の認知度・購入経験



[出典] 練馬区「平成 26 年度区政モニターアンケート」

農地を残すことに対する区民の意識



[出典] 練馬区「平成 26 年度区政モニターアンケート」